

考古学研究と博物館

遺跡や遺物（石器や土器など）を研究して歴史を明らかにするのが考古学です。日本は国土が狭く、開発が多いため、日常的に遺跡発掘のニュースを耳にし、時には歴史的大発見がテレビや新聞をにぎわすことが珍しくありません。講師は40年以上にわたって考古学研究を行うとともに、広島大学の東広島市移転に伴って東広島キャンパス内の遺跡の調査や研究、普及活動に携わってきました。一方では、広島大学総合博物館の一員として博物館活動や教育活動を行ってきました。考古学資料は博物館成立の背景となる博物学の対象資料として蒐集され、古より多くの人々に親しまれ、また研究されてきました。考古学資料は博物館と深い関係にあるのです。講演では、講師の考古学研究の成果や広島大学の遺跡・遺物を紹介しながら、本学の博物館活動との関わりについてお話しします。



講師：藤野 次史（広島大学総合博物館 教授）

日時：2020年 2月 15日（土）14：00～16：45

申込不要・入場無料

※講演会終了後、15：45～16：45に、藤野教授が埋蔵文化財調査部門サテライト館とキャンパス内の遺跡を解説する見学会を開催します。

会場：広島大学文学部 B204 教室

主催：広島大学総合博物館

